

令和元年度 卒業式

式 辞

今年、正に暖冬そのもので、少々物足りなさすら感じる毎日が続いています。自然は時として厳しいものですが、今は優しく、我々を包み込んでくれています。

本日、ここに令和元年度、日本大学山形高等学校「卒業式」を、新型コロナウィルス感染拡大防止のためとは言え、このような形で挙行しなければならない状況、誠に残念です。本来ならば、御来賓各位、ならびに役員各位、また、保護者の皆様に御臨席を賜り、卒業生の皆さんを祝福できれば、喜びもさらに増したと思います。卒業生はもとより、私ども教職員、並びに在校生も同じ気持ちです。

ただ今、四百十四名の皆さんに、卒業証書を授与いたしました。

保護者の皆様には、お子様が、本校での課程を無事修了され、本日の晴れの卒業の日を迎えられましたこと、さぞお喜びのことと存じます。教職員を代表し、心からお祝い申し上げますとともに、これまで、本校にお寄せいただきました、御理解と御協力に対しまして、深く感謝を申し上げます次第でございます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとございます。

今、ここに、本校の卒業生にふさわしい人間として、誇りを持って巣立つことは、皆さん自身の喜びであると同時に、皆さんの成長を見守ってこられました、保護者の皆様、地域の皆様、そして、私たち教職員の喜びでもあります。

どうか、今日のこの感慨と、感謝の念を忘れることなく、社会のために有為な信頼される人物として、さらに大きく成長していただきたいと思えます。

これまで、始業式や終業式の集会で、少しでも皆さんの記憶に残るように、わたくし自身が見たり考えていることを中心に話をしてきました。とうとう本日が最後になりました。本校を巣立ち新しい社会に胸膨らませていく卒業生の皆さんに、はなむけの言葉を三つ贈りたいと思います。

一つ目は、「予測できない未来への対応」の大切さです。

皆さんは、次の言葉を聞いたことがあるでしょうか。子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く」、それから、今後10〜20年程度で、半数近くの仕事が、自動化される可能性が高い」、という言葉です。

これは、グローバル化や情報化が進む中で、特にAI 木工知能 の急速な成長があります。多様な主体が、速いスピードで、相互に影響し合い、一つの出来事が、広範囲、かつ複雑に伝わっていくという、先を見通すことが、難しくなってきたという状況を表した言葉です。

このような予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を最大限に發揮し、楽しみ、よりよい社会と幸福な人生を創り出そうとする気概とその力が重要になります。

社会は常に変化するものです。未来を的確に予測することなどできるものではありません。新しいテクノロジーや新しいビジネスが次々と生まれていく中では、何が起ころかわかりません。場合によ

ると、今ある仕事がなくなったり、これまでなかったビジネスが生まれ、誰も起業したことがない会社設立され大企業に発展することもあるでしょう。また、既存の企業であっても、経営方針や組織、仕事の内容が大きく変化することもあるでしょう。だからこそ、そうした変化を楽しみ、その劇的な変化を面白いと思う感覚も必要になってくると思います。

二つ目は、「協力・協働する姿勢」を大切にすること。

社会が大きく変化する中で、次々に生まれてくる新しい考え方ややり方に、私たちも順応するともに、新しい考え方ややり方を産み出していかねばなりません。現在、多くの企業で多様性が重視されています。過去に固執し、その延長線上だけで考えていても、良い発想は生まれません。大切なことは、常に様々なことに好奇心を持ち、新たな体験をし、自ら外に出て行き、仕事以外でも多くの刺激を受けることです。そして、これまで学んだことやこれから学ぶであろう知識や技術を総動員するとともに、自分の専門分野だけでなく、他の分野についても理解し尊重し、他の分野の人とも協力、協働する姿勢が大切になると思います。

三つ目は、「大志を抱く」大切さです。

この贈る言葉は、「生徒会誌 道程」にもありますので是非読んでください。本日は一部のみとします。

これからの新しい時代を切り拓き、新しい時代を創造していくのは、出会ったチャンスをチャンスとして見極めることです。そして、そのチャンスをものにするためには、自分の力を高めておかなければなりません。それには、まず、好きなこと、やりたいこと、すなわち、夢や目標を持つことが大切です。

その夢や目標を実現するためには、校歌にも謳われている「ボーイズ ビー アンビシャス」の如く、どんなに厳しい道のりでも、夢や目標に向かって、決してあきらめず、たゆまぬ努力を重ねていくことが大切なのです。

この日大山形高校に集い、高き理想を抱き、学び、力を蓄え、最後まで諦めない強い精神を培ってきた皆さんの務めでもあると思います。どうぞ、皆さんの力を遺憾なく発揮し、これからの安心・安全な社会を築き、人々を幸福にするとともに、自らも幸福な生活を営んでいってください。どうか、皆さんがどこで生活しようと、日大山形高校のことはもとより、山形を思い、そして、何らかの方法で、山形に貢献しようとする気持ちを持ち続けてください。

それでは、最後になりましたが、保護者の皆様には、重ねて、お祝いを申し上げますとともに、卒業生の皆さんの、御健康と御活躍、そして御多幸を、心からお祈りし、式辞といたします。

令和二年三月一日

日本大学山形高等学校長 島津 宏道